

第2節 小串構内の試掘調査

1 医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

小串構内に立体駐車場の新営が確定したことを受けて、建設予定地の埋蔵文化財発掘調査（試掘調査）を行った。調査は村田裕一が担当した。以前の調査では、昭和58～60年にかけて行われた、医学部体育館新営に伴う試掘調査¹⁾、医学部看護婦宿舎改修に伴う試掘調査および発掘調査²⁾によって、旧石器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器などが出土しており、立体駐車場の建設予定地においても同様の遺物包含層（淡青灰色粘土層）の存在が予想された。今回の新営建物は、基礎構造が深さ10mのコンクリートパイル（中掘工法、直径40cm）を設置し、その上部に直方体の独立基礎を設置している。この基礎は、余掘りを含めて、平面で約3m四方以内、深さで現地表面から約1.5m以内である。したがって、立体駐車場建設による埋蔵文化財への影響は限定的と考えられたため、試掘調査を実施することとした。建設予定地内に3本の調査トレンチを設定し、西側から順にA～Cトレンチとした（Fig. 8）。調査は平成14年2月26日～3月25日および4月1日～15日にかけて行われ、A～Cトレンチの順に調査を進めた。最大となったAトレンチは、南北方向に長さ24m、幅5m、Bトレンチは6m四方の正方形のトレンチ、Cトレンチは南北方向に長さ14.6m、幅5mである。Aトレンチの北側には巨大なコンクリート製基礎が埋没し、またこの基礎の南側には直径20～30cm程度の松材による建物基礎杭が数多く打ち込まれており、調査に支障をきたした。いずれも、この地にかつて建っていた北2病棟に関連のある基礎構造と考えられる。コンクリート製基礎は強固であったため撤去は不可能であり、以下の掘削は行わなかった。木製杭は可能な限り撤去しながら調査を進めたが、その分調査の進行に支障をきたした。B・Cトレンチでの調査は順調に進行した。

今回の調査以前の小串構内では、現地表

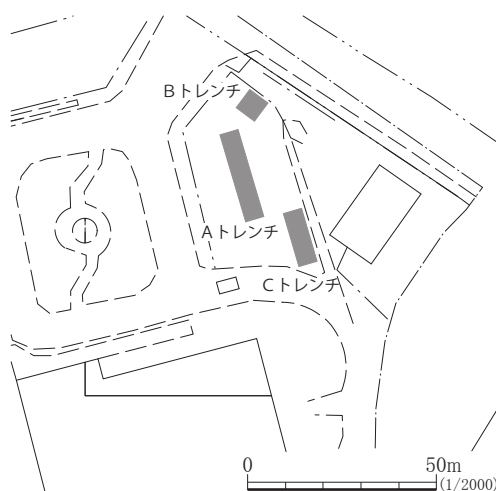


Fig.8 調査区位置図

面から約 1.0 ～ 1.5m 程度に埋没する水田床土層から出土する旧石器・縄文時代および中世・近世・近代の遺物を主体とした調査が行われてきた。昭和 61 (1986) 年に埋蔵文化財資料館によってなされた小串構内の埋蔵文化財に関する中間報告では、上記の所見をもとにした小串構内の遺跡調査基準が示されている。ところが、平成 10・11 (1998・1999) 年度に行われた宇部市小串地区土地区画整備事業関係諸工事に伴う発掘調査で、水田床土層より下位に位置する土層から縄文・弥生・古墳時代の土器が出土した。特に、弥生時代から古墳時代にかけての土器が大量に出土し、従来の所見を大きく見直す必要に迫られた。このような背景により、今回の調査では現地表面から約 1.5m 以下の土層における遺物の有無の確認に主眼をおいた調査を実施した。

調査の結果、従来の所見どおり 3 つのトレンチで現地表面からの深さ約 1.5m までの範囲より近世・近代の遺物が出土した。これに加えて新たな所見として、A トレンチでは現地表面から約 1.6m 以下に堆積する暗灰色砂から、C トレンチでは現地表面から約 2.3m 以下に堆積する暗灰色粗砂から遺物が出土することを確認した。出土遺物は小片が多いものの、A・C トレンチからは縄文時代から中世にわたる時期の土器が出土した。A トレンチよりも C トレンチの方が遺物量が少ないので、今回の調査地区内での遺物の分布は、調査区の西側に多く東側に行くにしたがって希薄となると推察される。

(2) 基本層序 (Fig. 9～11, PL. 7～9)

A トレンチ東壁中央付近では、現地表面から深さ約 10cm までがアスファルト舗装、約 20～60cm が造成土、約 60～80cm が水田耕土、約 80cm～1.1m が水田床土で、これ以下は地山である。地山は、現地表面からの深さ約 1.1～1.6m が暗灰青色粘土、約 1.6m 以下は暗灰色砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約 2.1m 程度になる。

B トレンチ北西隅では、現地表面から深さ約 5 cm までがアスファルト舗装、約 5～60cm が造成土、約 60～80cm が水田耕土と水田床土でその下が地山となる。地山は、現地表面からの深さ約 80～1.1cm が暗灰色粘土、約 1.1～2.2m が暗灰色粗砂、約 2.2m 以下が暗灰粘質砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約 2.1m 程度になる。

C トレンチ東壁南端では、現地表面から深さ約 5 cm までがアスファルト舗装、約 5 cm から 1.7m が造成土でその下が地山となる。地山は、現地表面からの深さ 1.7～2.3m が暗灰色粘土、約 2.3m 以下が暗灰色粗砂となる。トレンチ底面は現地表面からの深さが約 3m 程度になる。

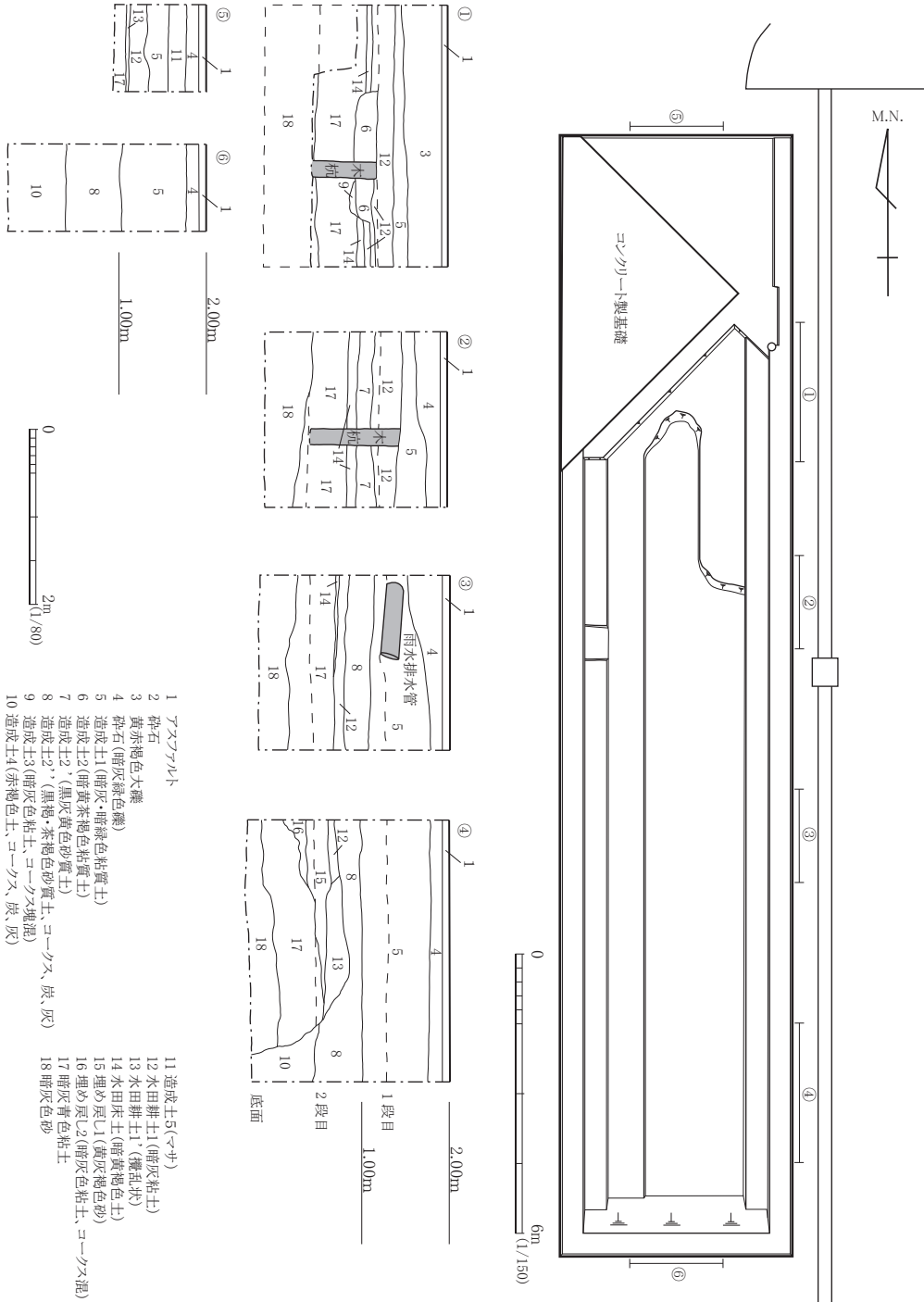


Fig.9 Aトレンチ平面図・断面図

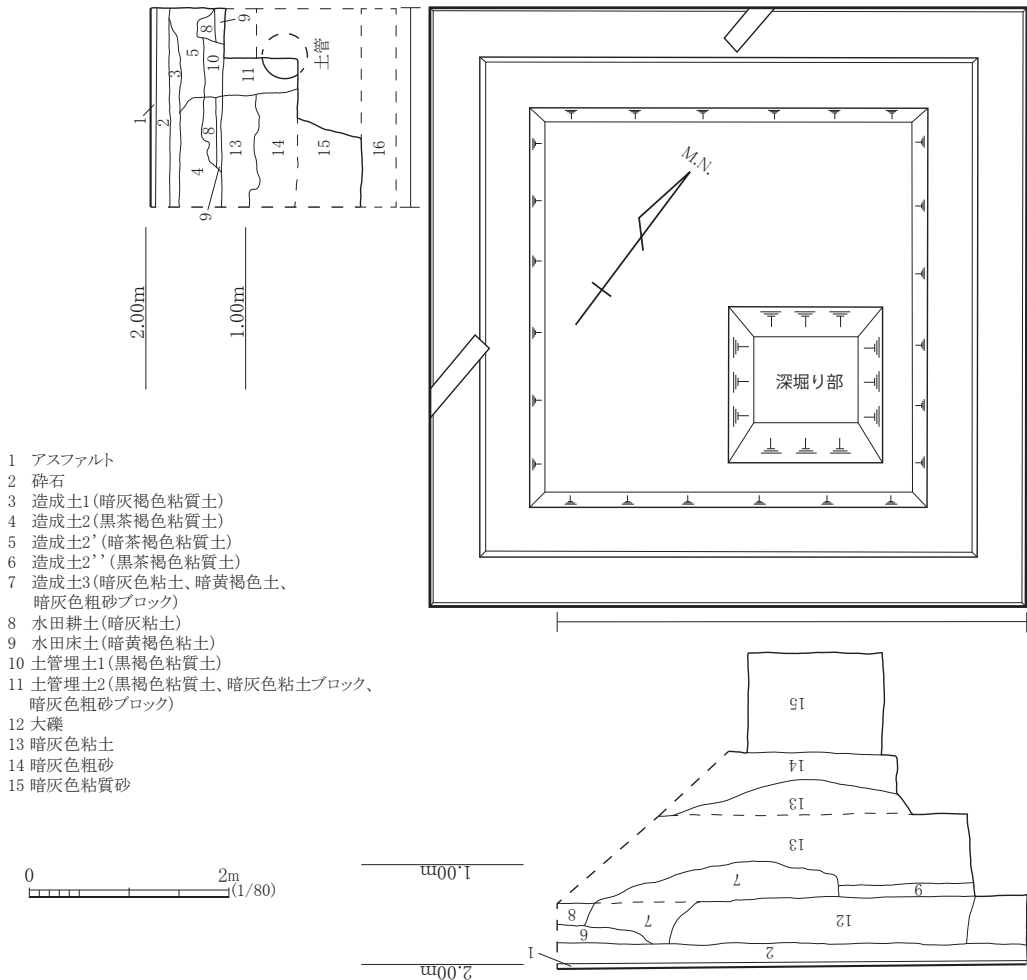


Fig.10 Bトレンチ平面図・断面図

(3) 出土遺物

Aトレンチ (Fig.12, PL.10～13)

1～12は造成土より出土した陶磁器である。1は磁器の皿である。全体的に白色を呈するが、内面底部に淡い藍色の釉がかかる。2は陶器の碗である。外面に染付を施す。3は磁器の碗である。内面に圈線をひき、外面に染付を施す。4は白磁の碗である。5は磁器の染付皿である。口縁部は緩い小波状となる。内外面に染付が施される。6は陶器の碗である。外面の文様は回転具で施文されたと考えられる。上に薄く白い釉がかかる。7は紅皿である。外面は型成型である。内面および口唇部上面に透明釉を施す。8は陶器の口縁部片である。内外面に黄色の釉をかけるが、口唇部上面は無釉となる。9は磁器の底部

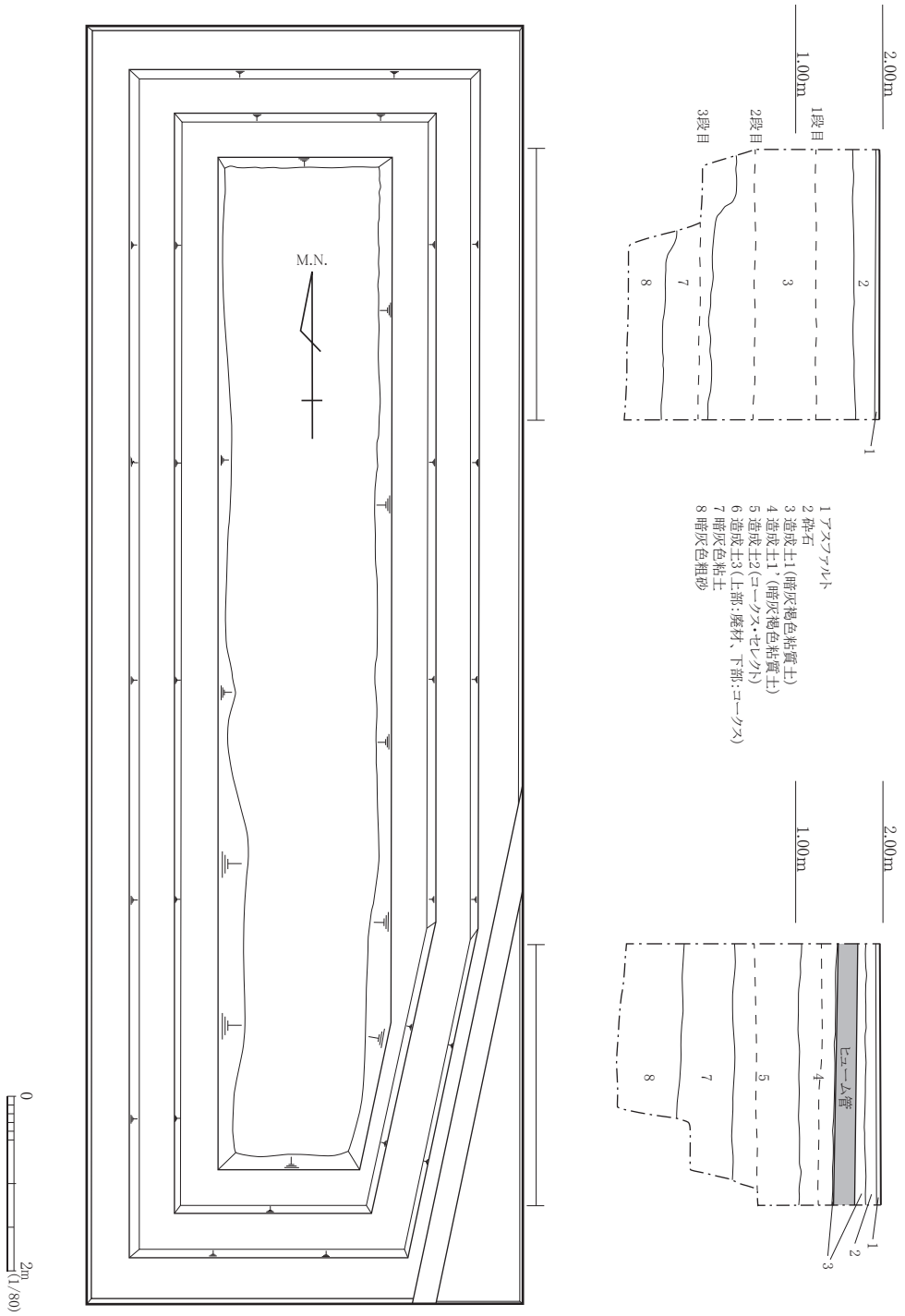


Fig.11 Cトレンチ平面図・土層図

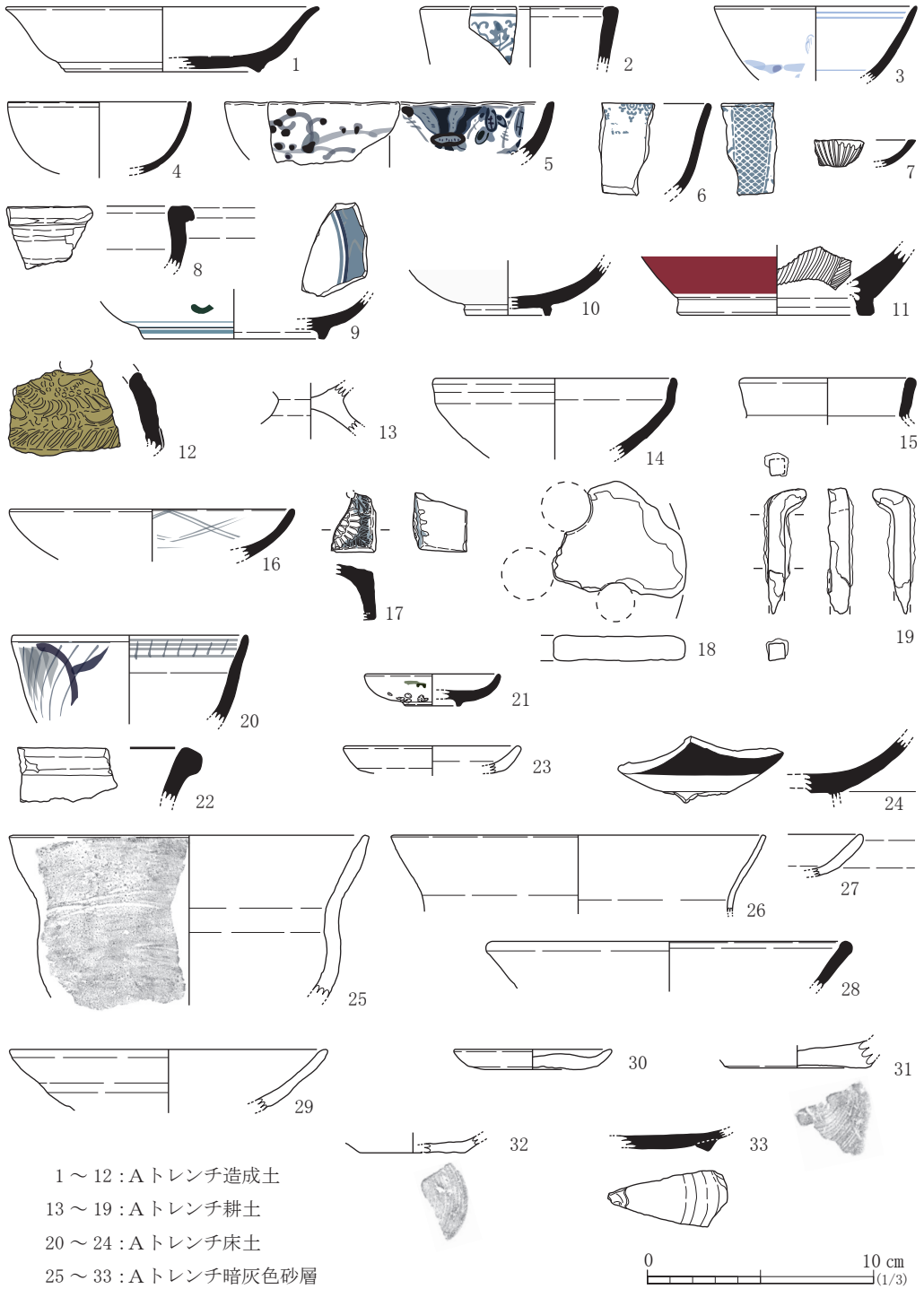


Fig.12 出土遺物実測図①

片である。内面および外面に圈線が描かれる。10は陶器碗の底部片である。高台付近は無釉となる。11は播鉢の底部片である。鉄釉が施される。12は孔を有する陶器片である。外面に浮き彫りで文様が施される。置物か。

13～19は耕土より出土した。13は高坏の底部である。風化が激しく調整は観察できない。14は陶器の口縁部である。内面および外面胴部にかけて藁灰釉をかける萩の碗である。15は陶器の壺である。やや外傾する口縁部で、無釉である。16は磁器の染付皿である。17は方形を呈する陶器で、孔を有するため水滴と考えられる。上部に菊花文を施す。18はサナである。風化が激しく、一部被熱のためか赤化する。19は鉄釘である。胴部以下を欠損する。

20～24は床土より出土した。20は磁器で、口縁部内面に圈線をひき、外面にも染付を施す。21は磁器の小皿である。外面は明緑灰色を呈する。緑色の染付を施す。外面に砂粒が付着する。22は陶器の口縁部である。23は土師器の皿である。口縁部下に屈曲部をもつ。24は陶器の碗の底部片である。外面に黒色の釉をかけ、高台付近は露胎となる。

25～33は暗灰色砂層より出土した。25は縄文土器の口縁から胴部片である。胴部にくびれをもち、内外面に貝殻による条痕がわずかに残る。内面に口唇部から幅3cmほどの煤の付着がみられる。26は土師器壺の口縁部であり、頸部の屈曲部まで残存する。丁寧なナデを施す。27は土師器の坏である。胴部にやや緩い屈曲部をもつ。28は須恵器坏の口縁部片である。29は土師器の皿である。糸切りの際についたと思われる跡が残る。30は土師器皿である。底部は歪みが大きい。31・32は土師器の底部片である。ともに底面に糸切り痕が残る。33は陶器の底部片である。内外面ともに無釉である。粘土紐を貼付けて高台とする。

Bトレンチ (Fig.13, PL.13)

34・35は暗灰緑色粘土層(床土)より出土した。34は陶製の皿で、全体に薄く浅黄色の釉がかけてある。外面に幅広の浅い沈線が施されており、3条確認できる。35は磁器の碗である。外面に絵付けが施されている。

Cトレンチ (Fig.13, PL.13)

36～38は暗灰色粗砂層より出土した。この層より上では、近代以降の遺物が主体となり、近世以前の遺物で図化できるものはなかった。36は土師器の皿である。37は土師器の坏である。口縁部下が肥厚し、低い稜をもつ。外面に煤の付着がみられる。38は土師器の底部片である。底面に糸切り痕が残る。

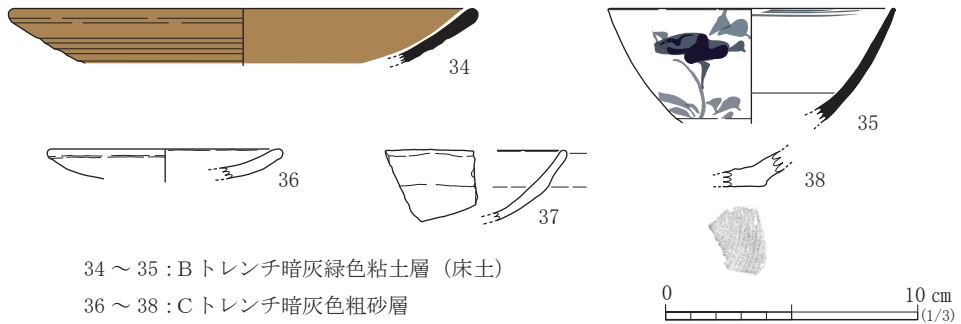


Fig.13 出土遺物実測図②

(4) 小結

今回の調査における最大の成果は、現地表面から約 1.6m 以下からの遺物の出土を確認できたことであろう。これにより、小串構内には従来考えられていたよりも深部の土層に遺物を包含している場所が多く存在することが確実となった。

これまでの調査と同様に、床土に相当する層以上からは近世以降の遺物の出土比率が高い。報告はしなかったものの、B トレンチ 1・2 区の黒褐色造成土からは、近代以降の陶磁器が大量に出土している。しかしながら、A・C トレンチの暗灰色粗砂層からは縄文土器をはじめ、中世までの遺物が出土している。今回の調査で遺構は検出されていないが、A トレンチの状況を見るかぎり、当地点において遺物は一定量埋蔵されていると考えられる。暗灰色粗砂層は縄文～中世の遺物包含層として認識しなければならないだろう。今回、B・C トレンチの床土以下の層からの遺物出土量が少ないのは、階段状の掘削により調査面積が少ないためであったとも考えられる。

今回の調査結果を踏まえて、平成 14 年度以降の調査が慎重に行われ、貴重な考古学的成果が得られている⁵⁾ ⁶⁾。例えば、小串構内において、遺物の遺存状態がよく、流れ込みによる堆積とは考え難い古代の遺物包含層⁷⁾が確認されている。今後、小串構内での地下掘削を伴う施設整備に際しては、今回の暗灰色粗砂層に相当する層にも注意を払いつつ、埋蔵文化財の保護に当たる必要がある。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館 「宇部 (小串構内) 医学部体育館新営に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985 年)

小串構内の試掘調査

- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館 「宇部（小串構内）医学部体育館新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』、1986年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館 「小串構内医学部看護婦宿舍改修に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』、1987年）
- 4) 報告書未刊。
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館 「医学部地域医療教育研修センター新営工事に伴う予備発掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報8』、2014年）
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館 「医学部職員宿舍他公共下水接続工事に伴う試掘調査」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報2』、2006年）
- 7) 注5)に同じ。

Tab.3 出土遺物観察表(土器)

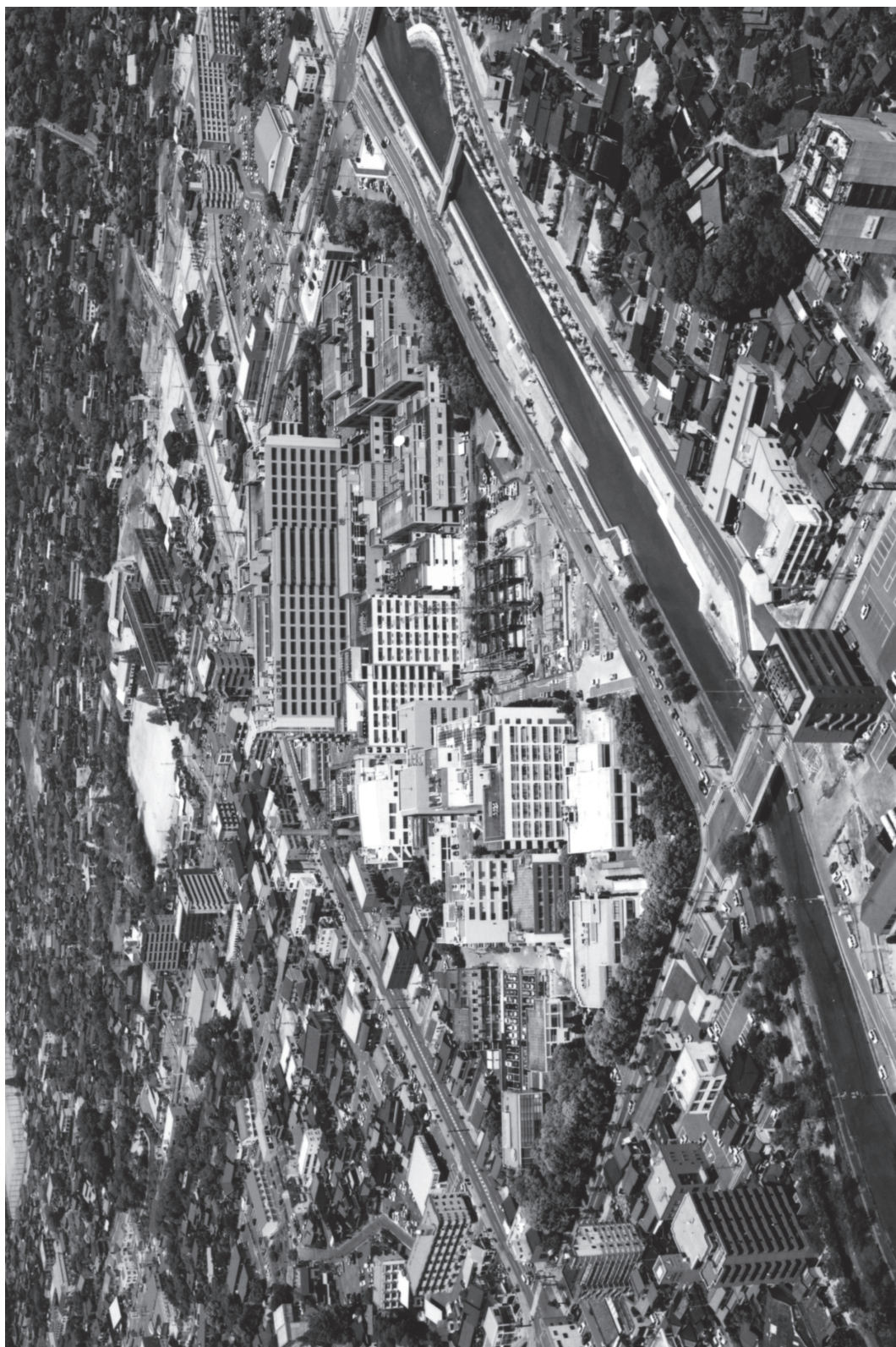
遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	Aトレンチ	造成土	磁器 皿	口縁部～ 底部	(13.8)	(8.8)	2.9	素地 白色 釉 藍色・透明	精緻	底部内面に淡い藍色 の釉を施す
2	Aトレンチ	造成土	陶器 碗	口縁部	(7.8)			素地 灰白色 釉 藍色	精緻	
3	Aトレンチ	造成土	磁器 碗	口縁部	(8.9)			素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	
4	Aトレンチ	造成土	磁器 碗	口縁部	(8.1)			素地 白色 釉 透明	精緻	
5	Aトレンチ	造成土	陶器 皿	口縁部	(14.5)			素地 白色 染付 藍色	精緻	
6	Aトレンチ	造成土	陶器 碗	口縁部				素地 白色 釉 藍・白色	精緻	
7	Aトレンチ	造成土	磁器 紅皿	口縁部				素地 白色 釉 透明	精緻	内面のみ施釉
8	Aトレンチ	造成土	陶器 鉢	口縁部				素地 にぶい赤 褐色 釉 黄色		口唇部上面 無釉
9	Aトレンチ	造成土	磁器 碗	底部		(8.0)		素地 白色 釉 藍色	精緻	
10	Aトレンチ	造成土	陶器 碗	底部		(3.8)		素地 淡黄色 釉 灰白色	精緻	藁灰釉 萩
11	Aトレンチ	造成土	陶器 播鉢	口縁部		(8.6)		素地 にぶい黄橙 色 釉 暗赤褐色		鉄釉
12	Aトレンチ	造成土	磁器 皿	口縁部	(14.5)			素地 白色 染付 藍色	精緻	
13	Aトレンチ	耕土	土師器 高坏	底部				①明黄褐色 ②明黄褐色	0.5～1.5mmの砂粒 を多く含む	
14	Aトレンチ	耕土	陶器 碗	口縁部	(10.8)			素地 灰色 釉 灰白色	精緻	
15	Aトレンチ	耕土	陶器 壺	口縁部	(7.8)			①② にぶい黄褐色	精緻	
16	Aトレンチ	耕土	磁器 皿	口縁部	(12.6)			素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	
17	Aトレンチ	耕土	陶器 水滴					素地 灰白色 釉 白色、藍色	精緻	菊花文 方形
18	Aトレンチ	耕土	素焼き サナ					①② にぶい黄褐色	0.5～3.5mmの砂礫 を含む	一部赤化 風化が激しい
20	Aトレンチ	床土	磁器 碗	口縁部	(10.4)			素地 白色 染付 淡い藍色	精緻	

平成 13 年度山口大学構内の試掘調査

遺物 番号	出土遺構	層 位	器 種	部 位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色 調		胎 土	備 考
								①外面②内面			
21	Aトレンチ	床土	磁器 小皿	口縁部～ 底部	(6.0)	(2.4)	1.4	①灰白色 ②明緑灰色	精緻	素地 灰白色 外面に砂粒が付着	
22	Aトレンチ	床土	陶器 鉢	口縁部				①灰白色 ②灰白色	精緻	素地 赤褐色	
23	Aトレンチ	床土	土師器 皿	口縁部	(7.9)			①灰白色 ②灰白色	0.3～1mmの砂粒を 少量含む		
24	Aトレンチ	床土	陶器 碗	底部				素地 にぶい黄 橙色 釉 黒色	0.5～1.5mmの砂粒 を少量含む		
25	Aトレンチ	暗灰色砂 層	縄文土器 鉢	口縁部～ 胴部	(15.9)			①にぶい黄色 ②明黄褐色	0.5～4mmの砂礫を 多く含む	貝殻条痕	
26	Aトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 壺	口縁部	(16.6)			①オリーブ黄 色②浅黄色	0.2～0.5mmの砂粒 を少量含む		
27	Aトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 坏	口縁部				①灰白色 ②灰白色	密		
28	Aトレンチ	暗灰色砂 層	須恵器 坏	口縁部～ 胴部				①灰黄色 ②浅黄褐色	0.2～1mmの砂粒を 少量含む		
29	Aトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 皿	口縁部	(14.1)			①にぶい橙色 ②にぶい黄褐色	0.2～0.5mmの砂粒 を少量含む		
30	Aトレンチ	暗灰色砂 層	カワラケ	口縁部～ 底部	(7.0)		0.9	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	0.5～3mmの砂礫を 多く含む	底部ゆがみ大	
31	Aトレンチ	暗灰色砂 層	土師器	底部		(6.4)		①灰白色 ②灰黄色	0.5～1mmの砂粒を 少量含む	回転糸切り	
32	Aトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 坏	底部		(4.8)		①灰白色 ②浅黄色	密	回転糸切り	
33	Aトレンチ	暗灰色砂 層	陶器 碗	底部				①灰白色 ②灰白色	0.3～1.5mmの砂粒 を含む	高台は粘土紐を貼付 ける	
34	Bトレンチ	床土	陶器 皿	口縁部	(18.6)			素地 灰白色 釉 浅黄色	精緻	外面に浅い幅広の沈 線を施す	
35	Bトレンチ	床土	磁器 碗	口縁部	(11.4)			素地 白色 染付 淡い藍色	精緻		
36	Cトレンチ	暗灰色砂 層	カワラケ	口縁部	(9.3)			①淡黄褐色 ②淡黄褐色	0.5～1mmの赤色砂 粒を少量含む		
37	Cトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 坏	口縁部				①灰白色 ②浅黄色	0.5～1.5mmの砂粒 を少量含む	外面に煤付着	
38	Cトレンチ	暗灰色砂 層	土師器 皿	底部				①淡黄褐色 ②淡黄褐色	0.2～1mmの砂粒を 少量含む	回転糸切り	

Tab.4 出土遺物観察表(鉄器)

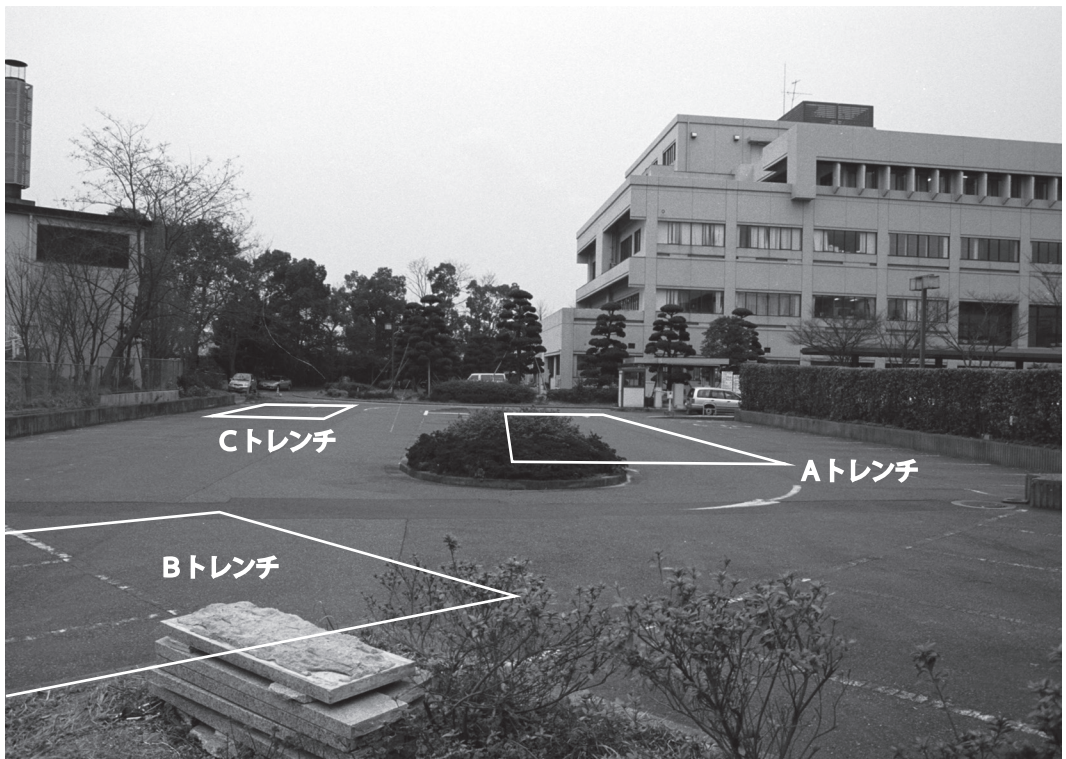
遺物 番号	出土遺構	層 位	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考
19	Aトレンチ	耕土	釘	(5.53)	1.79	0.9	18.02	



小串構内全景（南から）



(1) 調査区近景（北東から）



(2) 調査区近景（北から）



(1) Aトレンチ作業風景 (北から)



(2) Aトレンチ作業風景 (北から)



(3) Aトレンチ東壁南端 (西から)

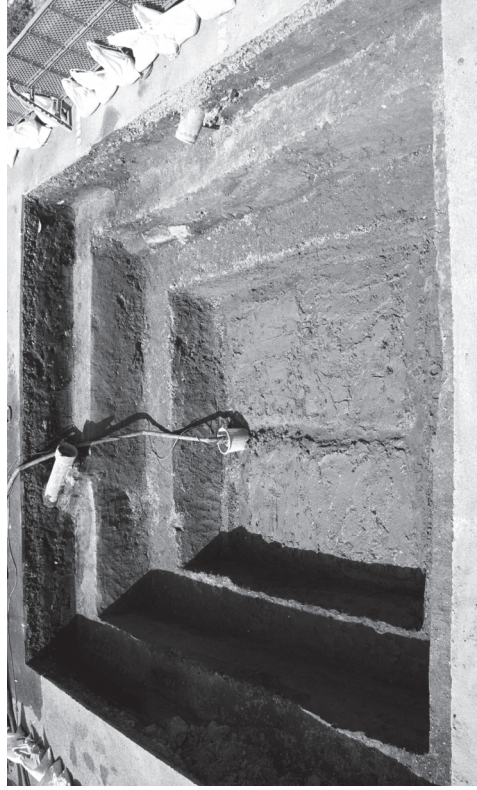


(4) Aトレンチ全景 (南西から)

小串構内医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査 三



(2)BTレンチ東壁 (北西から)



(4)BTレンチ全景 (北東から)



(1)BTレンチ北壁 (南東から)



(3)BTレンチ南壁 (北西から)



(1)CTレンヂ北壁(南から)



(2)CTレンヂ東壁(南西から)

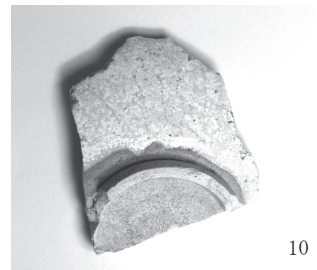
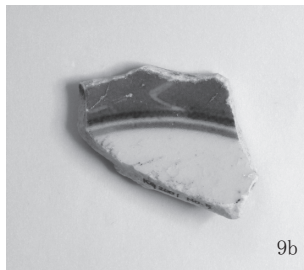
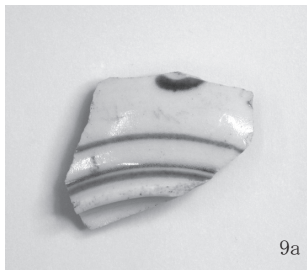
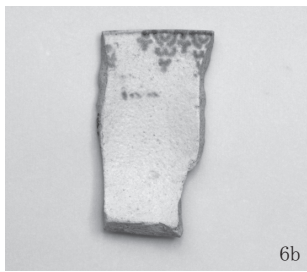
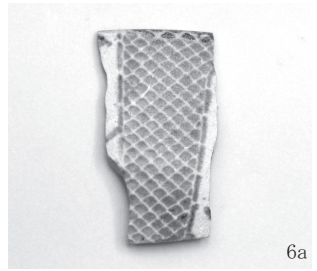
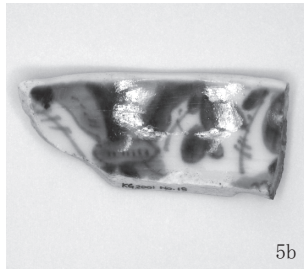
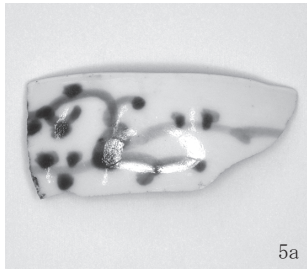
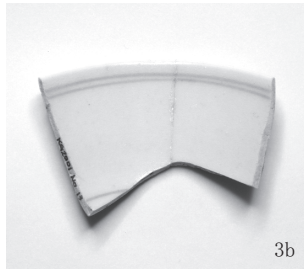
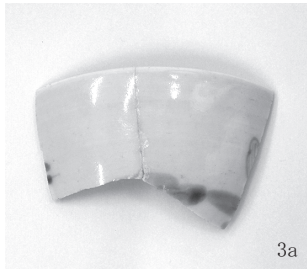
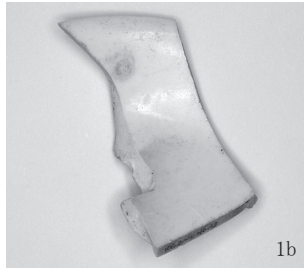
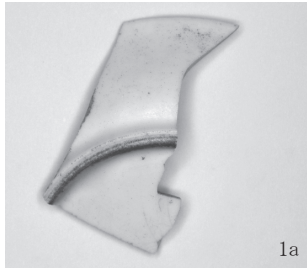


(3)CTレンヂ全景(南西から)

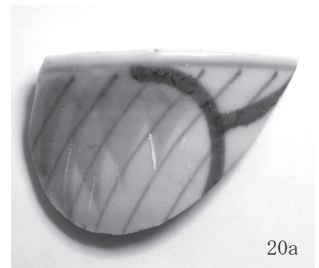
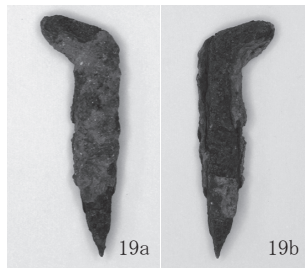
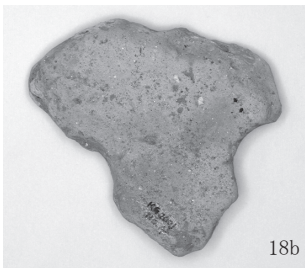
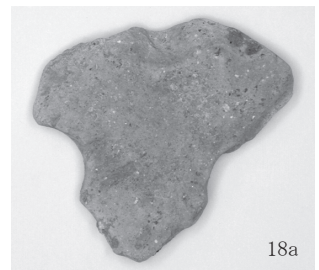
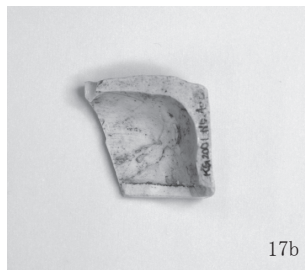
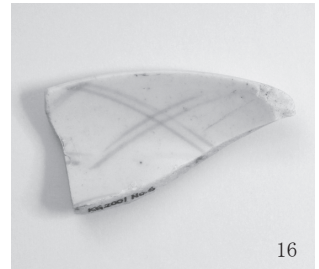
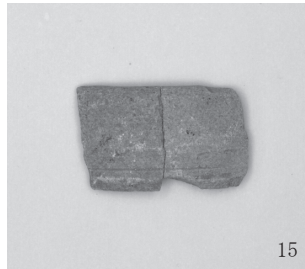
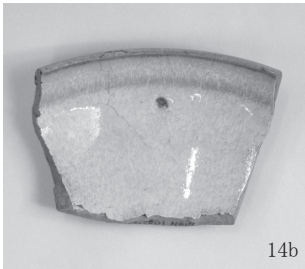
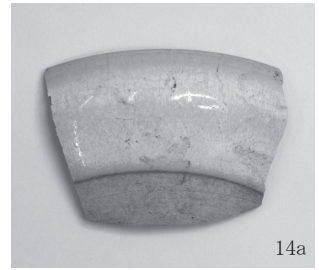
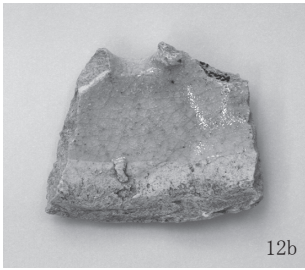
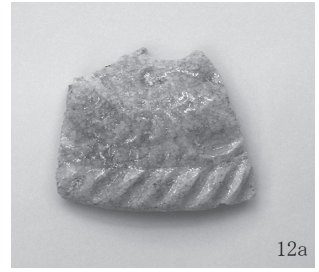
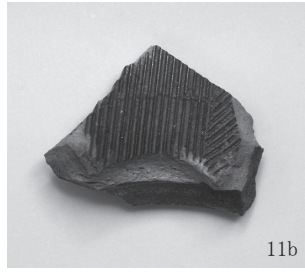
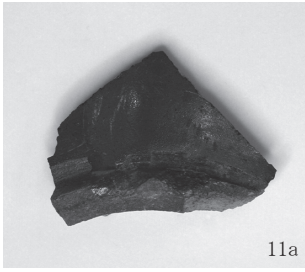


(4)CTレンヂ全景(北から)

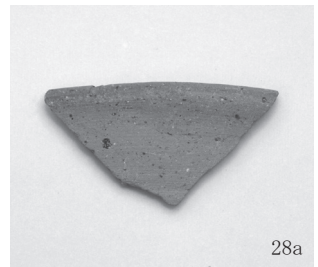
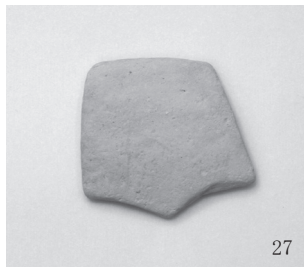
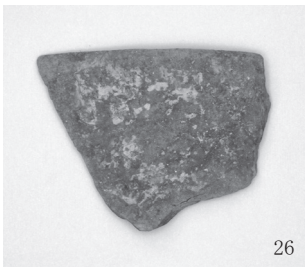
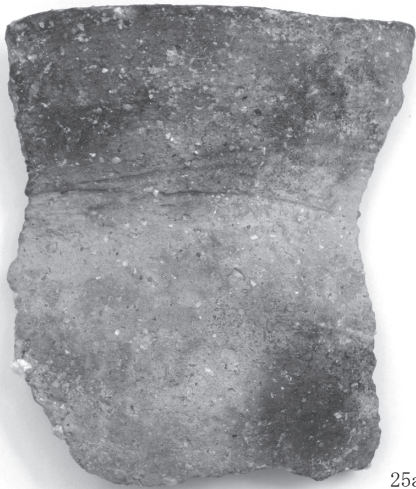
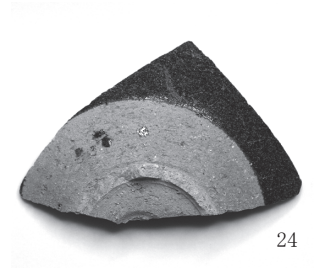
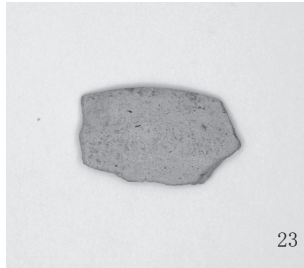
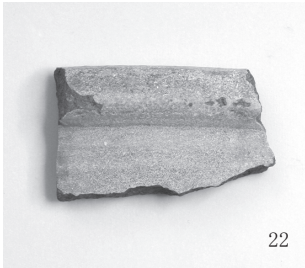
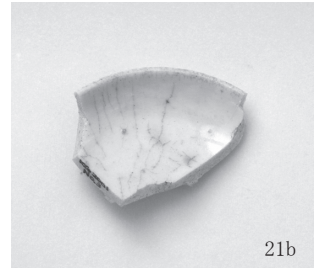
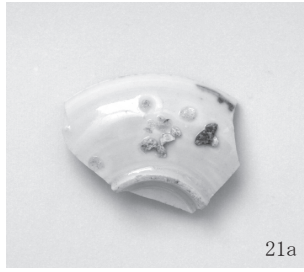
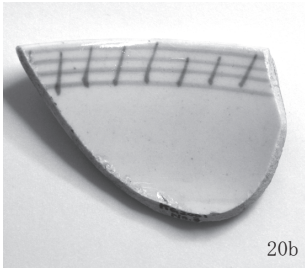
小串構内医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査 四



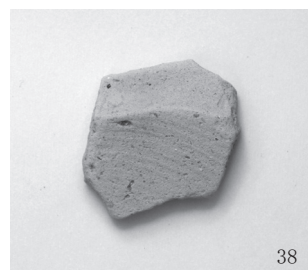
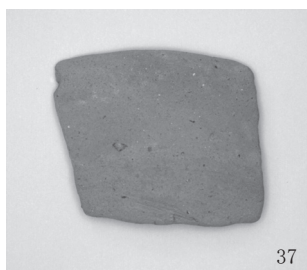
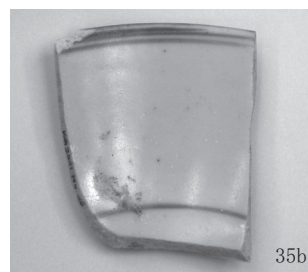
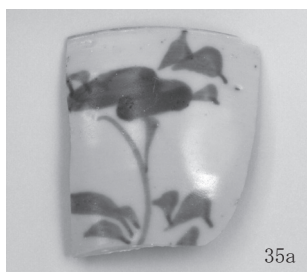
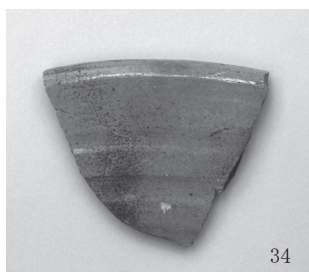
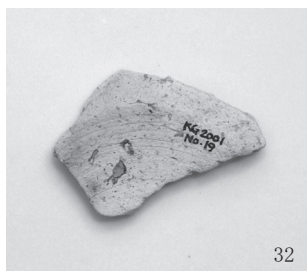
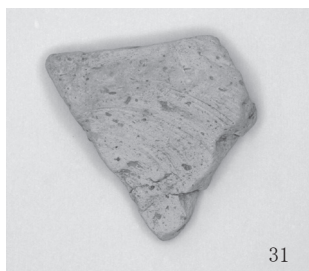
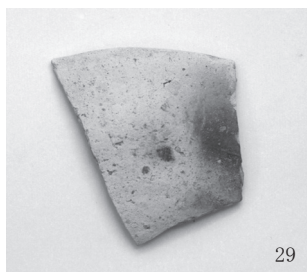
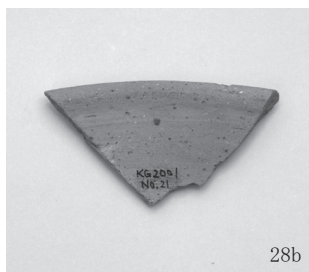
Aトレンチ出土遺物①



Aトレンチ出土遺物②



Aトレンチ出土遺物③



A~Cトレンチ出土遺物